

京都府あけぼの賞表彰式

10月18日、京都テルサで第21回KYOのあけぼのフェスティバル2009を開催。式典では、京都府あけぼの賞として、3個人と1団体に山田知事から表彰状を手渡しました。府では、さまざまな分野で活躍する女性を応援。男女共同参画の推進による豊かな地域社会づくりを目指します。



全国初 NPO支援の無利子融資制度スタート

府内で活動するNPO法人の活動を資金面で支援するため「きょうとNPO活動支援融資制度」を創設。9月24日、提携する地元金融機関などと融資制度に関する協定書の締結を行いました。10月1日から全国初の実質無利子融資制度を開始。官民協働でNPO支援に取り組む、地域力再生の社会環境づくりを進めます。



協働で進める 農村再生への挑戦

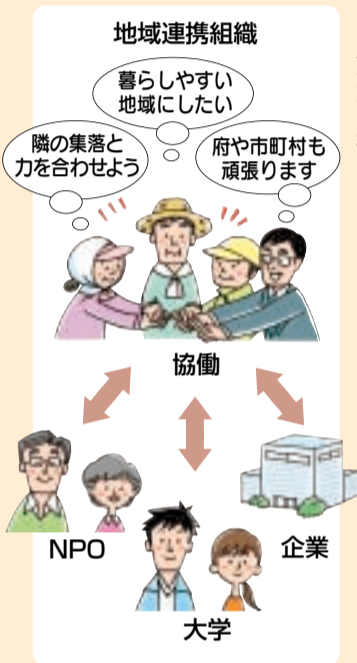
「命の里」である農村地域。府では、農林水産分野はもちろん、医療や福祉、教育、交通分野への支援など総合的な再生に取り組み、守り支えていきます。

農村の機能や価値が持続困難に

人口の減少と高齢化の進行によって、農村の機能や価値の持続的な維持が難しくなっています。またリーダーが不在となり、人や集落のつながり、助け合いなども失われつつあります。

みんなで頑張るぞ！

農村再生に不可欠な「地域の意欲がわく支援」を。府では「里力再生事業」や「ふるさと共援活動」などで、地域で頑張る皆さんと一緒に課題解決に挑みます。



里力再生事業

農村集落が連携して行う、多様な活動を支援。平成21年度から5年間で50地区が目標。すでに8地区で活動を開始。

ふるさと共援活動

農村集落と大学やNPO、企業などの地域外の協力が一体となって行う活動を支援。昨年スタートし、現在11地区で実施。

地域の課題を解決するぞ！

生活に必要な交通手段の確保や農産物を使った新たなビジネスなど、地域が考え実践する取り組みを協働で進めます。

多くの支援に地元も奮起

地域の再生に向けた取り組みが各地で始まっています。

宮津市世屋地区(里力再生事業・ふるさと共援活動)

世帯数73、人口135人で高齢化率(65歳以上の方が占める割合)が約60%。人口の減少や交通が不便といった課題を抱えています。

地区代表 地区全体が繋がって元気が出てきました



前野周雄さん

世屋には5つの集落があり、こんやくや山のいも、粟といった特産品を通じて活性化を目指しています。高齢化が進んでいますので、ふるさと共援活動を始めるタイミングがあと少し遅かったらうまく進まなかったかもしれません。これまで以上に地区同士のつながりが太くなりましたし、これを機に地区全体を盛り上げていこうと、皆さん元気に頑張っています。

「ターン就農 おいしい米づくり」で多くの人々の「合力」で

縁あって3年前に上世屋に移住しました。ここでは棚田での米づくりのほか、藤織りや紙すきなど、自然と寄り添いながら淡々と暮らしが営まれてきました。この当たり前の暮らし、当たり前前の風景の大切さを伝えていきたいと思ったのです。「合力」

世屋地区の5集落が連携し 京都府立大学 NPO法人里山ネットワーク世屋の三者で共援協定を締結

「加工グループ」地区に伝わるあわもちを商品化

かつては下世屋地区の多くの家で作られていたあわもちを市街地で販売したところ、飛ぶように売れたんです。そこで「世屋の黄金もち」として販売しようと、粟の生産から製造に向けた取り組みを始めました。以前は米の代わりには仕方なく食べていた粟が、地域の特産品づくりに役立つようになってうれ



女性加工グループの皆さん

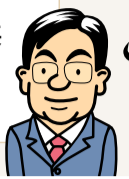
府立大学 大学の持つ力を農村に生かしたい

府立大学では、以前から農村の活性化方策の研究を進めており、京都府、宮津市の呼び掛けもあって、昨年9月から世屋、日ヶ谷地区の活性化を支援しています。世屋の畑集落では、かつて行われていたこんやくづくりを復活。苗を植え付



山田知事の 今月のひとこと

府民のニーズを基に
暮らしやすいまちへ



現地現場主義で、さまざまな場所へ足を運び感じたことは「地域の安心・安全にかかわることは、そこに住んでいる住民の皆さんが一番知っている」ということです。そこで、京都府が管理している道路や河川、建物さらには信号などの改善箇所を、地域に暮らしやすさを、比較的小規模な改良・修繕工事を行う取り組みを始めました。それが21年度当初予算京都「温め」予算の一つ「府民公募型安心・安全整備事業」です。募集を始めた今春から、9月30日の締め切りまで、約二千二百通もの応募をいただきました。本当にありがとうございます。すでに着手している工事もあり、今後、なぜここのかという説明を府民の皆さんに明らかにしながら着実に進めていきます。これからは、暮らしやすい京都府となるよう、府民の皆さんもさらに協力いただきたいと思っております。

特集

共に育む「命の里」

農業ビジネスで活性化 農商工連携を進めています

新しい農業あるいは地域活性化の手法として、農業ビジネスが注目されているのはご存知ですか？

今回紹介している宮津市上世屋の棚田では、農家とお酢の醸造会社が連携し、酢の原料となるお米を無農薬で栽培。地域の活性化や景観の保全に結びついています。

府では、農林漁業者と商工業者が連携し、お互いの強みを生かした新たな展開を支援するため「農業ビジネスセンター京都」を開設しました。農商工連携に向けてのマッチングやビジネスプランづくりをお手伝いします。

お気軽にご相談ください。

農業ビジネスセンター京都

☎075-417-6888 ☎075-441-5742

<http://www.nbc-kyoto.jp/>



9月に開催した農商工連携フェア

農村再生を

地域連携組織 (例)



買い物や送迎のために自主運行交通システムを始めよう



学校の空き教室で幼児や高齢者と交流活動を始めよう

行政はこうした取り組みを応援します

「命の里」 再生

昔ながらの豊かな自然とにぎわいを取り戻すとともに、持続的な発展を目指します。



私にもできる！ サポートいろいろ

食卓から農村を応援 府内産の食材を選んで

購入時に府内産の農林畜水産物を選べば、生産地である農村の振興につながります

京都府内の農産物の直売所はこちら

<http://www.pref.kyoto.jp/tisantisho/tyokubaisho.html>

やましろ農産物直売フェアinふるさとフェア久御山

11月23日(祝)9時30分～14時30分 久御山中央公園

☎山城広域振興局農林商工部 ☎0774-21-3229 ☎0774-22-8865

ふるさとボランティア活動 週末の時間を生かして

※参加者は随時募集 <http://www.pref.kyoto.jp/furusato/>

☎農村振興課 ☎075-414-4917 ☎075-414-5039

京都府農林水産フェスティバル

京都産 あなたが選べば ふるさといきいき

11月28日(土)、29日(日) パルスプラザ(伏見区)

府内各地から産地直送の農林水産物が大集合。試食・販売やふるさとの食材を用いたお食事処、新規就農・田舎ぐらし相談コーナーなど

☎研究普及ブランド課 ☎075-414-4940 ☎075-414-4974

移住したい方、農業がしたい方 あこがれを現実に

めぐり京都ネット <http://www.agr-k.or.jp>

6面の京都ジョブパーク農林水産業コーナーにご相談ください

京の田舎ぐらし講座・交流会

11月21日(土)13時30分～ 京都府農協会館(南区)

「京の田舎ぐらしナビゲーター」が田舎ぐらしに関する相談にお答えします 定員50人 11月16日までに所定様式を提出(先着順)

☎京の田舎ぐらし・ふるさとセンター ☎075-441-6624 ☎075-441-5742

農業大学校学生募集

一般入試 試験日:平成22年1月15日(金) 受付:12月1日～15日

☎同校(綾部市) ☎0773-48-0321 ☎0773-48-0322

☎農村振興課 ☎075-414-4900 ☎075-414-5039

京都市右京区嵯峨越畑地区(里力再生事業)



代表 会本 泰さん

合力の井之本 泰さん

を求める一方、参加し

た方々には世屋の素晴

らしさを体を通して感

じてもらえればと思っ

ています。

京都市北西部に位置し、市街地から約60分。800枚の棚田が広がる豊かな自然環境に恵まれています。が、年々過疎化・高齢化が進んでいます。地域では「このままでは取り残される」との未来への危機感から、これまで進めてきた美しい自然や特産物を生かした「観光農村」づくりをさらに発展させるため、集落が連携した里力再生の取り組みを開始しました。



里力再生事業・ふるさと共栄活動が始まった地域



ふるさと共栄活動HP <http://www.pref.kyoto.jp/kyouen/>



生命環境科学研究科 助教 中村貴子さん

けるなど、事業化に向けて地区を挙げた取り組みが始まっています。第一歩を踏み出すきっかけを作れたと思います。活性化には地域の皆さんの「何かしたい」という思いが大切です。今後、段階に応じてお手伝いをしていきたいと考えています。